



ほんものを たべよう

Alter Weekly Order Catalogue

2019.4月3 週号

提出日					
4/	火	水	木	金	
	9	10	11	12	
配達日					
4/	火	水	木	金	
	16	17	18	19	
翌々週分配達日					
4/	火	水	木	金	
	23	24	25	26	

オルターの提案

本当に安全な食べものを手渡すために

- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
- 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
- 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
- プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

野菜 VEGETABLES

若き自然栽培の達人

森 光司 久保 智和 (和歌山県)

文責 西川 榮郎 (NPO 安全な食べものネットワーク オルター 代表)



森 光司さん

久保 智和さん

自然栽培の野菜

和歌山市で、森 光司さんと久保 智和さんは農薬・化学肥料・有機肥料を使わず、自然栽培で多品目の野菜などの農作物を栽培しています。この2人の自然栽培野菜セットをお届けします。

2人の野菜は昨年2018年からオルターへ出荷していただけてきました。量がまだまとまらなかったため、単品出荷ができず、「とくとく!畑の福袋」に応援していただけていました。

農薬を使用する農業に疑問

森 光司さんは和歌山市生まれ。燃料屋、不動産屋の家で育ちました。家に7町歩の水田がありましたので、子どもの時に野良仕事を手伝っていました。その土地は祖父が借金の返済のために売りました。

福井工業大学を卒業して、1年間サラリーマン生活をしたあと、1998年に新規就農し、施設を借りて水耕栽培に取り組みました。もともと農業は大嫌いでしたが、やり方次第で、水耕栽培もうまくできそうに思っていました。

しかし、虫と病気の対策のため、マスク・メガネ・カッパを装着して農薬を使用することに疑問を持ちました。こんな野菜を人が食べて大丈夫なのかと。2年目には農薬を控えるようにしました。慣行栽培ですが露地栽培も始めました。しかしダニが止まらず、無農薬化は無理だと判断し、5年目には水耕栽培をやめることにしました。

越えられない課題の連続

その後、慣行栽培でハウス栽培を行い、JAにも出荷したことがあります。

10年前にはその慣行栽培と並行する形で、露地で農薬を使わない有機農業を始めました。本を読んで無農薬農業を試みるのですが、越えられない課題が次々と現れ、ついには野菜ができなくなりました。

「不安」と「腰痛」にも悩まされ、20代の後半は草をむしりながら畑で泣いていたそうです。病虫害で行き詰まりましたが、農業をやめることはありませんでした。

命の原点

助けてくれたのは気功の先生に教えてもらった「丹田呼吸法」、腰痛を治すことができました。畑の中で自然とは何か、命とは何か、自分とは何か、自然栽培とは何かを問いました。今までの知識を一度捨てて、呼吸とともに畑に向かい合いました。

心を落ち着かせて今できることをする、今を輝かせ、未来を輝かせる!命の原点とは「矛盾しているたった一つの点」ではないか。「0に戻す」というイメージがひらめきました。

耕盤層を抜く

土と余計な物質が残っている状態ではちゃんとした作物はできない。あつてはならないもの、なくてはならないもの、何が必要かを問う中で、一度捨てた知識が知恵に変わりました。作物の成長を阻害する「耕盤層」(農薬や化学肥料を使った畑には石のように硬い土の層ができる)をなんとかしないといけない。耕盤層ができていると作物は根を伸ばせず、水分や養分も吸収できません。耕作放棄地になっていた借地での農業でしたので、借りた当初は圃場の中に耕盤層があったのでした。

耕盤層は土と水を入れると抜けやすくなる。試行錯誤を繰り返して、現在の微生物を活用する方法に到達しました。使用する微生物は光合成細菌、乳酸菌、納豆菌です。土を団粒構造の多孔質にすることで微生物の活性化、作物の根張りを促進します。

微生物の力を活用して作物本来の力を最大限に発揮させる自然栽培に取り組みすることで、耕盤層が抜け、作物がすくすくと育つようになりました。

病虫害は肥料の鶏糞をやめることで解決しました。

水やりもせず天気まかせ

こうして農薬・化学肥料・有機肥料を使わない本格的な自然栽培を、2014年11月から始めました。

現在の圃場は水田300a、露地80aです。最近では異常気象ですが、天気まかせで水やりもしていません。それでも収穫は普通にできています。

自家採種にも取り組む

森さんは種子にもこだわっています。ズッキーニ、インゲン、キュウリ、さつまいも、しょうが、トマトなどを自家採種しています。種子を守る活動をしている野口種苗からピーマンなどの種を購入しています。

自然農業塾

森さんは共著「農から学ぶ哲学」(文芸社)を出版し、農家を集めて自然農業塾も開催しています。自分の技術を公開して、仲間を増やしています。福祉作業所の人と一緒にグループホームの農作業にも取り組みます。将来は農産加工にも夢を持っています。

トップサラリーマンをやめて自然農

久保 智和さんは、和歌山工業高校卒業後、建設現場で27年間働きました。トップサラリーマンで役職にも就いていました。

奥様が重度のアトピーで、食で改善しました。農業には全く興味がなかったのですが、「おいしい」「甘い」自然食に興味を持ち、和歌山県主催の農業大学校で学んだあと、森 光司さんに師事しました。

2017年11月に会社を辞め、前職での取引先の会社が所有していた40aの田んぼを借りて新規就農し、農業開始当初から森さんと同様の栽培方法で自然栽培を実践しています。

現在の圃場は水田90a、露地40aです。森さんの圃場と隣接しています。六次化産業に取り組み、味噌や醤油を自分の栽培した穀物で作るのが夢です。

森 光司さん・久保 智和さんの 自然栽培農作物 ☆☆☆

●栽培品目

米、もち米、大豆、トウモロコシ、トマト、ナス、シシトウ、ズッキーニ、キャベツ、白菜、ブロッコリー、ほうれん草、小松菜、水菜、キュウリ、インゲン、ピーマン、玉ねぎ、うり類、大根、アスパラ、オカノリ、バジル、落花生、さつまいも、しょうがなど

●防除

農薬の使用はありません

●施肥

化学肥料、有機肥料も使いません

●使用資材

光合成細菌(土作り)
エヒメA1(土作り)、納豆菌
土を煮たもの(土作り) 耕盤層を壊すのに有効